

CASBEE-建築(新築)2016年版  
三井不動産 総合技術アカデミー

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版

欄に数値またはコメントを記入

■評価ソフト:

CASBEE柏2016(v2.1)

スコアシート		竣工段階							
配慮項目		環境配慮設計の概要記入欄		評価点	重み係数	評価点	重み係数	全体	
Q 建築物の環境品質									3.8
Q1 室内環境					0.40		-		3.5
1 音環境				3.8	0.15		-		3.8
1.1 室内騒音レベル				3.0	0.40	3.0	-		
1.2 遮音				5.0	0.40		-		
1 開口部遮音性能		T-2同等以上の遮音性能の窓(ガラス)		5.0	0.60	3.0	-		
2 界壁遮音性能		2階研修諸室の界壁はDr45以上		5.0	0.40	3.0	-		
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)						3.0	-		
4 界床遮音性能(重量衝撃源)						3.0	-		
1.3 吸音				3.0	0.20	3.0	-		
2 温熱環境				2.6	0.35		-		2.6
2.1 室温制御				3.5	0.50		-		
1 室温				3.0	0.38	3.0	-		
2 外皮性能		窓ガラス2.4~1.6W/m <sup>2</sup> K、断熱材は壁1.04W/m <sup>2</sup> K、屋根1.12W/m <sup>2</sup> K		5.0	0.25	3.0	-		
3 ゾーン別制御性				3.0	0.38		-		
2.2 湿度制御				3.0	0.20	3.0	-		
2.3 空調方式				1.0	0.30	3.0	-		
3 光・視環境				4.1	0.25		-		4.1
3.1 昼光利用				3.6	0.30		-		
1 昼光率		2階研修諸室の講義室で算定、昼光率0.2%		4.0	0.60	3.0	-		
2 方位別開口						3.0	-		
3 昼光利用設備				3.0	0.40	3.0	-		
3.2 グレア対策				4.0	0.30		-		
1 昼光制御		2階研修諸室窓面はブラインド+小庇+スクリーン(ルーバー)を設置		4.0	1.00	3.0	-		
3.3 照度		2階研修諸室の照度は500lx以上		4.0	0.15	3.0	-		
3.4 照明制御		2階研修諸室の作業単位でリモコンスイッチにて照明制御が可能		5.0	0.25	3.0	-		
4 空気環境				4.0	0.25		-		4.0
4.1 発生源対策				5.0	0.50		-		
1 化学汚染物質		F☆☆☆☆の内装材を使用		5.0	1.00	3.0	-		
4.2 換気				3.0	0.30		-		
1 換気量				3.0	0.33	3.0	-		
2 自然換気性能				3.0	0.33	3.0	-		
3 取り入れ外気への配慮				3.0	0.33	3.0	-		
4.3 運用管理				3.0	0.20		-		
1 CO <sub>2</sub> の監視				3.0	0.50		-		
2 喫煙の制御				3.0	0.50		-		
Q2 サービス性能					0.30		-		3.8
1 機能性				4.1	0.40		-		4.1
1.1 機能性・使いやすさ				3.0	0.40		-		
1 広さ・収納性				3.0	0.33	3.0	-		
2 高度情報通信設備対応				3.0	0.33	3.0	-		
3 バリアフリー計画				3.0	0.33		-		
1.2 心理性・快適性				4.6	0.30		-		
1 広さ感・景観		居室の天井高さは2.8m		4.0	0.33	3.0	-		
2 リフレッシュスペース		2階に休憩室(約120㎡)を設置、室内には自販機等を設置予定		5.0	0.33		-		
3 内装計画		実大サンプルやパースで事前検証を行う		5.0	0.33		-		
1.3 維持管理				5.0	0.30		-		
1 維持管理に配慮した設計		内外装ともに維持管理に配慮		5.0	0.50		-		
2 維持管理用機能の確保		維持管理機能の確保		5.0	0.50		-		
2 耐用性・信頼性				3.5	0.30		-		3.5
2.1 耐震・免震・制震・制振				3.8	0.50		-		
1 耐震性(建物のこわれにくさ)		1.25倍の耐震性確保		4.0	0.80		-		
2 免震・制震・制振性能				3.0	0.20		-		
2.2 部品・部材の耐用年数				3.0	0.30		-		
1 躯体材料の耐用年数				3.0	0.20		-		
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔				3.0	0.20		-		
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔				3.0	0.10		-		
4 空調換気ダクトの更新必要間隔				3.0	0.10		-		
5 空調・給排水配管の更新必要間隔				3.0	0.20		-		
6 主要設備機器の更新必要間隔				3.0	0.20		-		
2.4 信頼性				3.6	0.20		-		
1 空調・換気設備		各室個別空調		4.0	0.20		-		
2 給排水・衛生設備		BCP(非常用)排水槽・2槽式受水槽・災害時用水栓・井水利用		5.0	0.20		-		
3 電気設備				3.0	0.20		-		
4 機械・配管支持方法		耐震クラスA		4.0	0.20		-		
5 通信・情報設備				2.0	0.20		-		

<b>3 対応性・更新性</b>			<b>3.8</b>	0.30	-	-	<b>3.8</b>
<b>3.1 空間のゆとり</b>			<b>4.6</b>	0.30	-	-	
1	階高のゆとり	1階で6m、2階で4m	5.0	0.60	3.0	-	
2	空間の形状・自由さ	比率0.14	4.0	0.40	3.0	-	
<b>3.2 荷重のゆとり</b>		主要居室の床は4900N/m <sup>2</sup> 、地震用の割増はないのでレベル4	<b>4.0</b>	0.30	<b>3.0</b>	-	
<b>3.3 設備の更新性</b>			<b>3.2</b>	0.40	-	-	
1	空調配管の更新性		2.0	0.20	-	-	
2	給排水管の更新性		3.0	0.20	-	-	
3	電気配線の更新性		3.0	0.10	-	-	
4	通信配線の更新性		3.0	0.10	-	-	
5	設備機器の更新性	敷地南側に主要機械室を配置、また南側路に仮設スペースを確保	5.0	0.20	-	-	
6	バックアップスペースの確保		3.0	0.20	-	-	
<b>Q3 室外環境(敷地内)</b>			-	<b>0.30</b>	-	-	<b>4.2</b>
<b>1 生物環境の保全と創出</b>		環境特性、地域性に即した計画	<b>4.0</b>	0.30	-	-	<b>4.0</b>
<b>2 まちなみ・景観への配慮</b>		景観への配慮を行った計画	<b>5.0</b>	0.40	-	-	<b>5.0</b>
<b>3 地域性・アメニティへの配慮</b>			<b>3.5</b>	0.30	-	-	<b>3.5</b>
<b>3.1 地域性への配慮、快適性の向上</b>		地域性への配慮を行った計画	<b>4.0</b>	0.50	-	-	
<b>3.2 敷地内温熱環境の向上</b>			<b>3.0</b>	0.50	-	-	
<b>LR 建築物の環境負荷低減性</b>			-	-	-	-	<b>4.1</b>
<b>LR1 エネルギー</b>			-	<b>0.40</b>	-	-	<b>4.5</b>
<b>1 建物外皮の熱負荷抑制</b>		[BPI <sub>m</sub> ] =0.83	<b>5.0</b>	0.20	-	-	<b>5.0</b>
<b>2 自然エネルギー利用</b>			<b>3.0</b>	0.10	-	-	<b>3.0</b>
<b>3 設備システムの高効率化</b>		[BEI <sub>m</sub> ] =0.66	<b>4.4</b>	0.50	-	-	<b>4.4</b>
<b>4 効率的運用</b>			<b>5.0</b>	0.20	-	-	<b>5.0</b>
集合住宅以外の評価			<b>5.0</b>	1.00	-	-	
4.1	モニタリング	モニタリングの実施	5.0	0.50	-	-	
4.2	運用管理体制	運用管理を行う	5.0	0.50	-	-	
集合住宅の評価			-	-	-	-	
4.1	モニタリング		3.0	-	-	-	
4.2	運用管理体制		3.0	-	-	-	
<b>LR2 資源・マテリアル</b>			-	<b>0.30</b>	-	-	<b>4.0</b>
<b>1 水資源保護</b>			<b>4.2</b>	0.20	-	-	<b>4.2</b>
<b>1.1 節水</b>		節水型便器・自動水栓	<b>4.0</b>	0.40	-	-	
<b>1.2 雨水利用・雑排水等の利用</b>			<b>4.4</b>	0.60	-	-	
1	雨水利用システム導入の有無	井水利用(雑水利用)	5.0	0.70	-	-	
2	雑排水等利用システム導入の有無		3.0	0.30	-	-	
<b>2 非再生性資源の使用量削減</b>			<b>3.8</b>	0.60	-	-	<b>3.8</b>
<b>2.1 材料使用量の削減</b>			3.0	0.11	-	-	
<b>2.2 既存建築躯体等の継続使用</b>			3.0	0.22	-	-	
<b>2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用</b>			3.0	0.22	-	-	
<b>2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用</b>		ボード、ブロック、ビニル床材	5.0	0.22	-	-	
<b>2.5 持続可能な森林から産出された木材</b>			-	-	-	-	
<b>2.6 部材の再利用可能性向上への取組み</b>		躯体(RC)+軽鉄+仕上、OAフロア	5.0	0.22	-	-	
<b>3 汚染物質含有材料の使用回避</b>			<b>4.3</b>	0.20	-	-	<b>4.3</b>
<b>3.1 有害物質を含まない材料の使用</b>		F☆☆☆☆の内装材を使用	<b>5.0</b>	0.30	-	-	
<b>3.2 フロン・ハロンの回避</b>			<b>4.0</b>	0.70	-	-	
1	消火剤	窒素ガス消火	4.0	0.33	-	-	
2	発泡剤(断熱材等)	ハノン断熱材	5.0	0.33	-	-	
3	冷媒		3.0	0.33	-	-	
<b>LR3 敷地外環境</b>			-	<b>0.30</b>	-	-	<b>3.7</b>
<b>1 地球温暖化への配慮</b>		温暖化への配慮	<b>4.0</b>	0.33	-	-	<b>4.0</b>
<b>2 地域環境への配慮</b>			<b>3.7</b>	0.33	-	-	<b>3.7</b>
<b>2.1 大気汚染防止</b>			<b>3.0</b>	0.25	-	-	
<b>2.2 温熱環境悪化の改善</b>		温暖化への対応	<b>4.0</b>	0.50	-	-	
<b>2.3 地域インフラへの負荷抑制</b>			<b>4.0</b>	0.25	-	-	
1	雨水排水負荷低減		3.0	0.25	-	-	
2	汚水処理負荷抑制		3.0	0.25	-	-	
3	交通負荷抑制	利用実態に合わせた適切な量の駐車場確保と適切な駐車場計画	5.0	0.25	-	-	
4	廃棄物処理負荷抑制	ごみの削減と廃棄方法への配慮	5.0	0.25	-	-	
<b>3 周辺環境への配慮</b>			<b>3.4</b>	0.33	-	-	<b>3.4</b>
<b>3.1 騒音・振動・悪臭の防止</b>			<b>3.0</b>	0.40	-	-	
1	騒音		3.0	0.33	-	-	
2	振動		3.0	0.33	-	-	
3	悪臭		3.0	0.33	-	-	
<b>3.2 風害、砂塵、日照阻害の抑制</b>			<b>3.3</b>	0.40	-	-	
1	風害の抑制		3.0	0.70	-	-	
2	砂塵の抑制		4.0	-	-	-	
3	日照阻害の抑制	日影規制は上の基準に対応	4.0	0.30	-	-	
<b>3.3 光害の抑制</b>			<b>4.4</b>	0.20	-	-	
1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	過剰で無い明るさの庭園灯、スケジュール点灯	5.0	0.70	-	-	
2	星光の建物外壁による反射光(グレア)への対策		3.0	0.30	-	-	